

令和2年度 自己評価書

学校名

北海道厚真高等学校

1 本年度の重点目標

- (1) 基礎的・基本的な知識や技能及び読解力の向上を図るとともに、主体的に学習に取り組む生徒を育てる。
 (2) 言語活動や体験的活動などを通して、よりよい人間関係や社会性を育成するとともに、自己表現が適切に表出できる生徒を育てる。
 (3) 自己の適性を理解するとともに、将来の進路設計を明確に持ち、未来を切り拓く向上心にあふれ、課題解決に必要な思考力、判断力を持った生徒を育てる。
 (4) 豊かな感性や寛容の精神及び自他の生命を尊重する意識と態度を持ち、自ら正しく判断して行動できる生徒を育てる。

2 自己評価結果

評価項目・指標等			達成 状況	取組の 適切さ	今後の改善の方策
大項目	中項目	小項目			
学習指導	・基礎的・基本的な知識技能の定着 ・主体的に学習に取り組む	(指標) 生徒の自己評価、学校生活アンケート等において、「朝学習」の取組等に係る肯定的な回答が70%以上となることを目指す。 (生徒の肯定的な回答(そう思う・おおむねそう思う)が70%以上を評価A、50%以上を評価B、50%未満を評価Cとする)	A	A	肯定的回答74%、前年度69%と比べやや増加。職員の取組は3.7と高い。学習に向かう姿勢の乏しい生徒が一部いる。次年度はさらに向上を目指す。
		(指標) 生徒の自己評価、学校生活アンケート等において、家庭学習に関して「取り組んでいる」「概ね取り組んでいる」等の肯定的な回答が60%となることを目標とする。 (生徒の肯定的な回答(そう思う・おおむねそう思う)が60%以上を評価A、40%以上を評価B、40%未満を評価Cとする)	A	A	肯定的回答61%、前年度40%と比べ増加。課題の工夫や週末課題等の実施に取り組み、次年度はさらに向上を目指す。
		(指標) 授業の途中退室について、1人あたり前年度比10%減を目指す。 (新指標 前年度実数の10%以上減を評価A、0%以上減を評価B、マイナス%を評価Cとする)	A	A	実数315名、前年度506名、前々年度582名と比べ改善した。次年度はさらに改善できるように取り組む。
生徒指導	・公共の精神/社会規範を尊重する意識態度 ・自ら判断し行動できる	(指標) 生徒の朝の遅刻を、1人あたり前年度比5%減を目指す。指導啓発を行う。 (前年度比5%以上の減少を評価A、0%以上の減少を評価B、増加を評価Cとする)	A	A	・実数は257名であり、前年度429名と比べて減少した。教員による朝の出迎え活動、集会を活用した啓発指導などが要因。生徒会活動などを含め多面的な取組を積極的に進める。
	・日常指導 ・予防的活動 ・規範意識育成 ・共通認識/連携指導体制	(指標) いじめアンケートで、「いじめはどんな理由があっても許されない」との回答率100%を目指し、そのための啓発指導を行う。 (回答の割合が100%であれば評価A、80%以上が評価B、80%未満は評価Cとする)	B	A	・「そう思う」との回答97%。いじめに対する啓蒙活動が影響している。職員の取組は4.0と満点であった。次年度も100%を目標に各HRや全校集会時における指導、生徒会の自主的な活動等の充実を図る。
進路指導	・3カ年指導 ・学年体制 ・職業観	(指標) 就職希望の進路実現に向けて年内の内定率を100%とする。 (内定率が100%であれば評価A、80%以上が評価B、80%未満を評価Cとする)	B	A	・進路決定94%。次年度も、インターンシップを始め様々な取組により、職業観・進路意識を涵養し、早期に取り組んでいく。
	・進路情報収集/公開 ・資格・検定	(指標) 生徒の資格・検定取得等の取組について調査し、受験率100%を目指すとともに合格率の向上を図る。 (受験率が80%であれば評価A、60%以上が評価B、60%未満を評価Cとする)	A	A	・86%(前年84%・前々年82%)であった。1年生94%(93%・48%)2年生75%(94%・79%)3年生88%(78%・80%)であった。前年度並みであった。次年度はさらに取組を進め、合格率の向上を図る。

3 次年度以降の目標設定等に反映させる自己評価結果及びその改善方策事項

- ・学習指導について、本校の「育成すべき資質・能力」を育むために、生徒の実態に即した取り組みを進める。
 ・生徒指導について、家庭との連携に努め、全教員による日常指導や予防的活動で規範意識を育成する。
 ・進路指導について、望ましい職業観を育み、進路意識を高め、資格・検定取得へ積極的な取組を涵養する。